

安心なくらしを提案するページです

コミュニケーション能力の向上を目指し、芝居の要素を取り入れたユニークな教育法「ドラマケーション」が注目を集

めている。これまで主に小中学校などで活用されてきたが、就職活動対策などにも用途が広がりつつある。

芝居の要素で表現力アップ

ドラマケーション 広がる



「必ず誰かの体に触ってほしいね。では、花を表現して。はい、スタッフ」。大学生や教員など各地から集まった20〜50代の28人が、集団の中で触れ合いを感じながら身体表現した、「フアンリ

「ドラマケーション」の指導者を養成する講座で、身体表現に取り組む受講生たち (東京都新宿区)

対人能力に磨き 就活対策にも



指導者を養成する講座で、ゲームを楽しむ受講生たちに笑顔が広がる

「必ず誰かの体に触ってほしいね。では、花を表現して。はい、スタッフ」。大学生や教員など各地から集まった20〜50代の28人が、集団の中で触れ合いを感じながら身体表現した、「フアンリ

を育むことを目的とし、気軽に楽しくできるのが特徴だ。名称は、ドラマとコミュニケーションの造語。

互いに認め合う

「ドラマケーションで学んだことを生かして、地元生徒たちと友達の気持ちを受け止める力を植え付けた」と期待を込める。

同センター講師の正嘉昭さんは、ドラマケーションの効果について「すべて遊びなので、リラクセスでき、集中できる。自分に素直になつて動くことで表現力がアップする」と話す。

注意や余計なアドバイスはせず、本人の意思を尊重するという。正さんは、指導するポイントについて「うまい、下手と評価せずに相手を確認すること。認め合うことで、つたない表現の中にも面白さや楽しさをお互いに見つけることができるんです」と説明している。